

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	FLOW八尾		
○保護者評価実施期間	2026年2月10日		～ 2026年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23人	(回答者数) 23人
○従業者評価実施期間	2026年2月20日		～ 2026年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月6日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	感覚統合理論に基づく専門職による個別療育を実施している事。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援（セッション）の振り返りを行い次回の関わりに繋げていけるようにしている。 ・ 遊びを手段として成長していけるように、子どもたちの「主体性」を大切に関わる事。 ・ 安全対策もしながらも子ども達が探索したり挑戦する事が出来るような支援を心がけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員の自己研鑽やスキル向上のための技術指導をより努めていきます。
2	保護者が同伴して頂くスタイルの療育。お子さんの成長や頑張りを直接見て頂き、情報や様子を共有することが出来る所。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 療育終了時に振り返りの時間を設けている。 ・ 兄弟児がいる方にも様子を見て頂けるように別室にモニターを準備している。 ・ 「遊び」の様子から意味や生活への繋がりを専門的な視点でお伝え出来るように努めています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門的かつ一般的な言葉に置き換えて説明が出来るように職員間で話し合いながら研鑽して行きたいと思えます。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ダイナミックな遊びが多いため子ども同士の接触のリスクもある。安全管理により気を付けて行く必要がある。	療育の場としての必要面積は十分に満たしているが、子どもの主体的な動きに合わせて活動を進めるため、予測が不十分だったり叱咤の対応が出来ていない事がある。	子どもの能力を最大限に生かしつつ、出来るだけ子どもを制止せず、接触などを回避できるようなスキルを身に着ける。または手段を増やしていく。
2	固定化したプログラムではなく、「遊び」を手段としているため、療育の目的や狙いが分かりづらい場合がある。	個々のスタッフの技術や経験差もあるが、介入の意味や狙いを一般化した言葉で十分に説明が出来ていないかもしれない。	職員間で目的や狙いを日々、共有し意見を交換し技術だけでなくコミュニケーションスキルも高めて行く必要があると思えます。
3	集団生活に対するプログラムがない。	個別の課題が集団生活にも繋がると考えるが、集団を見据えた個別アプローチや説明などが充分ではないかもしれない。	集団生活が苦手なお子さんに対して小集団での支援は大切だと思うのでニーズに合わせて検討していきたい。